

京都三山の森は、時代とともにその姿を変えてきました

「京都らしさ」ってなんだろう？
森の変化をたどりながら、
未来の森づくりのヒントを
探してみよう！

9世紀以降の植生の変化 森が育んだ都の暮しと木の文化

平安京の造営に必要な材木は右京区京北から保津川の筏流して供給され、日々の暮しに必要な薪炭は京都三山や周辺地域から供給されつづけてきました。地力が痩せていくに伴いマツ林が主となり、日本文化を象徴する山になりました。

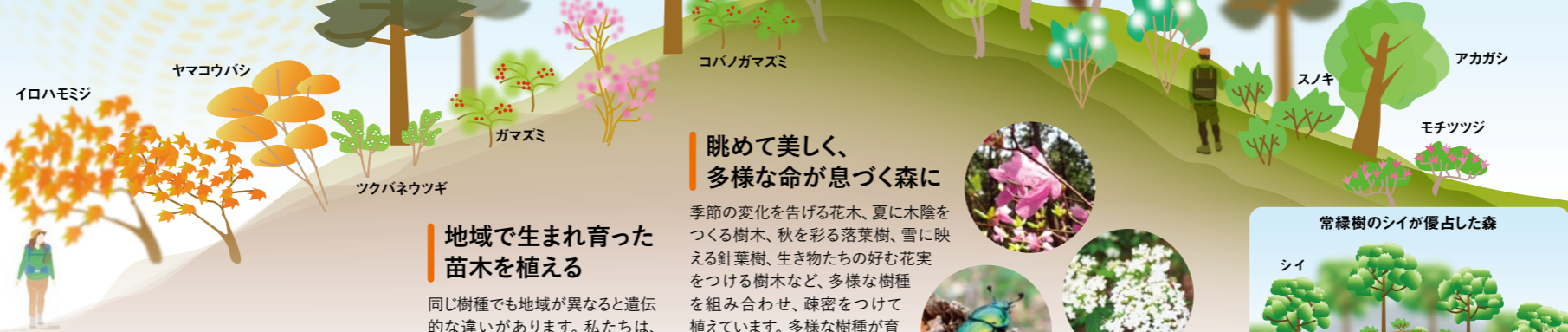
- ～8世紀頃
弥生時代～平安京遷都まで
アカマツやナラ類が増えはじめる
- 9世紀～
平安時代
商業的な薪炭利用によりアカマツとナラ類を中心とする二次林が形成
- 13世紀～
鎌倉/室町時代
少しずつアカマツの分布が増える
- 17世紀～
江戸時代
アカマツが優占する森と柴山(低木林)が点在

かつては燃料用の薪や焚き付け用の柴として、アカマツやコバノミツバツツジを利用していただよ。鎌倉時代から昭和初期までは、大原女(おはらめ)と呼ばれる行商が、薪や柴を頭に載せて京の町で売り歩く風習があったんだ。五山の送り火や、鞍馬火祭りの松明には、いままアカマツが使われているよ。でも、森が荒廃して調達は難しくなってきたよ。



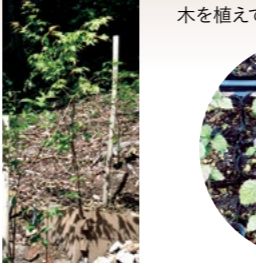
私たちがめざすのは「京都らしく健全な森」

樹木の寿命は人間よりも長いものが多く、100年以上生きつづける種も少なくありません。京都伝統文化の森推進協議会は、未来の京都に残したい森の姿を思い描き、森と人との「新しい関係」を結びなおしながら、森づくりをすすめています。



自然の理にかなう「適地適木」を見極める

森の環境は一概ではありません。尾根と谷筋とは陽あたりや風通し、土質も異なります。樹木の好む環境や育つスピードも違います。植物は自分で移動できませんから、植える人間の責任は重大です。まわりの木との調和も考えながら植えています。



眺めて美しく、多様な命が息づく森に

季節の変化を告げる花木、夏に木陰をつくる樹木、秋を彩る落葉樹、雪に映える針葉樹、生き物たちの好む花実をつける樹木など、多様な樹種を組み合わせ、疎密をつけて植えています。多様な樹種が育つ森は昆虫や鳥、小動物など様々な命が息づきます。



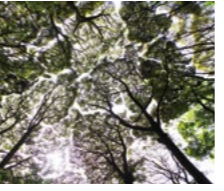
地域で生まれ育った苗木を植える

同じ樹種でも地域が異なると遺伝的な違いがあります。私たちは、地域内の木々の種から育てた苗木を植えています。



土砂災害を防ぐ安全な森に

木々の地中深くに張った根が土壌をしっかりとつかみ、雨による土壌流出や斜面崩壊を防ぎます。特に近年、豪雨災害が頻発し、こうした森づくりの考え方が注目されています。

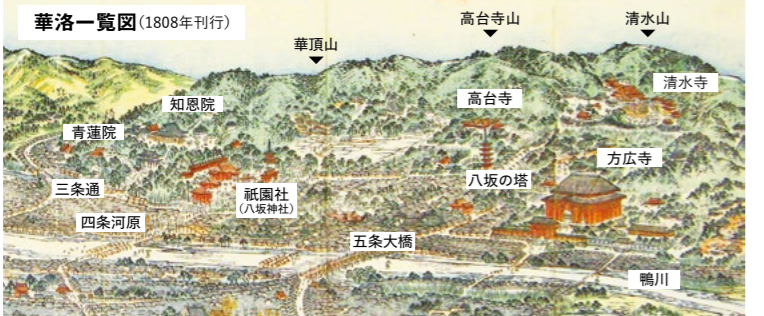


常緑樹のシイが優占した森

日差しが樹冠に遮られ、林床まで光が届かない「暗い森」に

「木を伐る=森を生かす」視点

長年にわたり放置され、暗く、多様性が失われて荒廃した森に活力を吹き込み、健全な森にしていくためには、増えすぎたシイや枯死したコナラなどを伐採することもあります。



江戸末期に描かれた『華洛一覽図』では、華頂山の山頂あたりにマツが見られるが、高台寺山にはほとんど高木がみられない。三条通から北側の山には低木林や草地が広がる(京都市歴史資料館所蔵)。

四季折々に変化する山の景色は、和歌や物語、絵画に大きな影響をあたえたよ。中世に花開いた芸術は、現代にもしっかりと受け継がれているよ。



シイの一斉開花を迎えた東山。正面は八坂神社の西楼門

この50年のめまぐるしい変化 変わりてた三山の姿に、保全活動の機運が高まる

人の手が離れた森で植生遷移が進み、枯れたマツに変わってシイが勢力を拡大しました。初夏の東山に現れるシイの開花によるマダラ模様は年々広がり、景観の変貌が進みました。見慣れていたはずの三山の異様な姿を前にして、私たちはようやくその危機に気づいたのです。

1970年頃 アカマツが枯れはじめる 外来種のマツノザイセンチュウが樹中に増殖して、根から葉への水の流れが妨げられて枯れる	1970年代後半 常緑広葉樹のシイが勢力を拡大 枯死したアカマツ林の跡地でシイが勢力を増し、新緑の東山に黄白色のシイの花がめだつように	2000年以降 ニホンジカの食害で低木層が消失 シカの食害は日本各地で問題に。低木層が枯れて土砂が流出しやすくなり、災害リスクが高まる	2010年頃 ナラ枯れが急増する コナラやシイが赤くなって枯れる「ナラ枯れ」は、カンナガキクイムシが媒介するカビが原因
--	--	--	--

京都の伝統と文化を育んできた三山の危機を、見すごせない!

私たちは未来に残す森の姿を思い描いて、森づくりを始めました

2020年
設立10周年を記念して、協議会の理念と活動の足跡をまとめた書籍を刊行
京都伝統文化の森推進協議会編(2020年)『京都の森と文化』ナカニシヤ出版

2007年
「京都伝統文化の森推進協議会」の設立
サポーターや活動協力団体の支援を受けて、文化的価値発信事業(公開セミナーとシンポジウムの開催など)や、森林整備・景観対策事業(林相改善事業、市民参加事業など)に取り組む。

東山を歩いて想像しよう

命きらめく100年後の森



東山散策マップ

「京都伝統文化の森推進協議会」の森づくりは、みなさんのご協力に支えられています

- サポーター**
青蓮院門跡、清水寺、高台寺、祇園商店街振興組合、真宗大谷派宗務所
- 活動協力団体**
粟田自治連合会、弥栄自治連合会、清水自治連合会、修道自治連合会、清水寺門前会、東山保勝会、ハイアットリージェンシー京都、ウェスティン都ホテル京都、京都室町ライオンズクラブ、ドットコム24 霊友会青年部、公益財団法人手織技術振興財団、積水化学工業株式会社、フィールドソサイエティ、嵐山保勝会、京都森林インストラクター会、星のや京都、植葉加藤造園株式会社、武田薬品工業株式会社京都薬用植物園
- special thanks シックスセンス 京都 SIX SENSES

- 設立の趣旨、活動の詳細はこちら
<https://kyoto-dentoubunkanomori.jp/>
- Instagramものぞいてね!
https://www.instagram.com/kyoto_den_bun/
- ご寄付・活動支援のお申し込み
<https://kyoto-dentoubunkanomori.jp/support/>

このパンフレットの用紙は「エコ間伐材N」を使用しています(K0301090)。植林された森林の健全な成長を促すために間伐された「間伐材クレジットバルブ」を10%以上、古紙バルブを30%以上配合しています。

100年前の転機

人の手が離れたとたんに荒れはじめた森
明治維新後に国有林化され「禁伐」の地となった東山は放置され、手入れが行き届かなくなりました。さらに、燃料革命や外材輸入、好景気による生活スタイルの変化などを背景に、人と森とはますます疎遠になりました。

- 1900年頃
明治/大正時代
アカマツを主とする疎林と薪炭林・ススキ草原「上知令」による社寺有林の国有化と伐採の制限
- 1930年頃
昭和初期
室戸台風(1934)で大きな被害を受ける戦後復興で木材需要が高まる
- 1960年頃
昭和30年代
燃料革命、木材輸入の自由化
アカマツとナラ類の広葉樹林
- 1970年頃
昭和40年代
高度経済成長のピーク
風致地区指定、古都保存法の制定

石油やプロパンガスが普及して薪炭の需要は減り、山の手入れもおろそかになったんだ。

東山の森を歩きますか

HIGASHIYAMA WALKING MAP

神社仏閣や文化施設が点在する東山の裾野は、京都屈指の人気観光エリア。裾野から見上げる稜線は、まるで一幅の屏風絵のよう。森に歩み入れば、息づく命の気配につつまれます。つづら坂を進んでたどり着くのは、山頂の展望台。京都盆地を眺めながら、絶えることなくつづく森と人との物語に思いをはせてみませんか。



「京都伝統文化の森推進協議会」の活動エリア

高台寺山国有林

おすすめ散策ルート

- ▶ 清水寺から展望台 経由で栗田口まで **木もれ陽たっぷり縦断コース** 約3.5km 約100分
- ▶ 青蓮院から青龍殿 経由で清水寺まで **京都の歴史を満喫コース**

行者橋

八坂神社の参道に位置する商店街。祇園祭は八坂神社の祭礼。国宝の本殿は檜皮葺。観光客が行き交う祇園商店街からは、西樓門越しに東山の稜線が見える。

祇園商店街

八坂神社の参道に位置する商店街。祇園祭は八坂神社の祭礼。国宝の本殿は檜皮葺。観光客が行き交う祇園商店街からは、西樓門越しに東山の稜線が見える。

大谷祖廟(東大谷)

東本願寺の飛地境内であり、親鸞聖人のお墓所。東本願寺所有の建物の中でもっとも古い元禄時代に造営された本堂や御願堂門がある。

「伐って使う・植えて育てる」森と人とのきずなも再生

多くの方に三山の現状を知ってもらい、森林に関心をもってもらいたく「森づくり」の一環です。三山の現状を招いたのは、私たちと森との関心が薄れたこと一因だからです。頻りに森に入り、恵みを継続して利用できるように手を入れていた時代に思いをはせ、市民のみなさんと森づくりに動んでいます。

シックスセンス 京都

日本初上陸の自然派ラグジュアリーリゾート。ウェルネスとサステナビリティを体験できるスパやレストランも。

シックスセンス 京都

馬町

シックスセンス 京都

H

シックスセンス 京都

京都国立博物館

シックスセンス 京都

安全・快適に散策を楽しむために…

- 森は生きています。動植物を傷つけないで!
- 火災の原因となる喫煙・焚火・花火は厳禁です!
- ゴミはすべて持ち帰りましょう。
- 山歩きに適した服装と、天候の急変に備えた装備を

林内には国有林歩道や京都一周トレイルが整備されていますが、なかには通行止めになっている危険な場所もあります。沿道の案内板や注意書きをよく読んで、各自の責任で散策してください。

ここ注目! ヒノキ林を楽しむつづら折の散策路

栗田口から登りはじめるとすぐにヒノキの林が迎えます。古くからヒノキは良質な建材として社寺や住居建築に多用され、樹皮を剥いだ楡皮(ひわだ)は屋根材として珍重されました。ヒノキの放つ香り成分のフィトンチッドにはリラックス効果があります。坂の途中、ふもと振り返ると、木立の間から平安神宮の大鳥居が見守ってくれています。

ここ注目! キクタンギクの自生の再生

この和名は高台寺山の菊溪に自生していたことになります。明るくて乾いた谷間を好むのですが、人手が入らなくなり、シイが増えて光が届かなくなったことで姿を消しました。協議会では「キクタンギクの自生地」を蘇らせようと、2017年からシイを伐採して日光当たりを確保し、市民の協力を得て、自生地の再生をめざして活動しています。

ここ注目! 光の届かない暗い森から、陽光あふれる明るい森に

陽ざしを好む木もあれば暗い場所で生きられる木もあり、葉の形や根の張り方は異なります。多様な動植物がいきいき育つ森づくりは、多様な生態環境をつくることから始まります。増えすぎたシイを伐採して光が差し込む場所を増やし、ツツジ、ムラサキシキブ、イロハモミジ、サクラ、エゴノキ、ヒノキなど多様な樹種を植えています。

地図の凡例

- 00 京都一周トレイル (トレイル番号)
- ←○分→ 所要時間
- ゲート(境内地との境界)
- i 「京都伝統文化の森推進協議会」設置看板
- 森づくりのエリア
- 見どころスポット
- WC トイレ

東山の森を彩る植物たち

<h4>★花の見ごろ</h4> <ul style="list-style-type: none"> ◆紅葉・黄葉の見ごろ ●実の見ごろ 	<h4>コバノミツバツツジ</h4> <p>ツツジ科の落葉低木。明るい尾根筋に多く、ピンク色の花を咲かせる早春の代表種。材はゆっくり燃えるので、松明や火付け用の柴として利用された。★4月</p>	<h4>カクミノソノキ</h4> <p>ツツジ科の落葉低木。早春につぶらな小さな花を咲かせる。夏に赤く熟す実は角ばり、ウスノキともよばれる。★4〜6月、●7〜8月</p>	<h4>カクレミノ</h4> <p>ウコギ科の常緑高木。春〜夏に新しい葉が出る古い葉は黄葉する。葉の形が天狗の裳(みの)に似ることから名づけられた。葉の形には変化が多い。</p>	<h4>コシアブラ</h4> <p>ウコギ科の落葉高木。若芽は食用になる。5枚の小葉の複葉。8〜9月に開花し、晩秋に黒紫の実がなる。薄い色に黄葉する。材は柔らかく加工しやすい。◇11月〜12月</p>
	<h4>ウワミズザクラ</h4> <p>バラ科の落葉高木。花期にはブラシのような白い花が多数密集して咲き、甘く香る。実は夏に赤くなる。材は、古代の亀甲占いに使用された。★4〜5月、●9〜10月</p>	<h4>ムラサキシキブ</h4> <p>シソ科の落葉低木。葉は対生。散策路の脇にみられ、野鳥が好む紫色の実をつける。鮮やかな実の色を装飾部に重ねて名づけられた。●10〜11月</p>	<h4>コジイ(ツブラジイ)</h4> <p>ブナ科の常緑高木。東山に多く、山を覆うように繁茂する(優占種)。5月頃に一斉開花すると、あたりに匂いが漂う。実は渋みが少なく食べやすい。</p>	<h4>イズセンリョウ</h4> <p>サクラソウ科の常緑低木。雌雄異株。4〜6月に黄白色の花を複数ずつつけ、雌株には白い球形の実がなる。シカは嫌って食べない。</p>
	<h4>ギンリョウソウ</h4> <p>ツツジ科の多年草。葉緑体をもたず、透けた白色が特徴。寄生した菌類を經由して、菌類と共生する樹木の栄養分を得ている。別名「ユウレイタケ」。★4〜5月</p>	<h4>ナナカマド</h4> <p>バラ科の落葉高木。冷涼な山地によく見られ、東山では比較的めずらしい樹木。秋に色づく黄色い葉や、冬の赤い実が森を彩る。良質の堅炭として珍重された。★5〜7月、◇●11〜12月</p>	<h4>タラヨウ</h4> <p>モチノキ科の常緑高木。雌雄異株で、雌株には秋に赤い実が集まって実る。大きな葉の裏面を傷つけると痕跡が黒く残るので「はがきの木」といわれる。</p>	<h4>アオキ</h4> <p>3〜5月に開花するが目立たない。雌雄異株。12月頃、雌株には実が赤く熟す。葉は苦味健胃作用があり、民間薬に利用されている。シカが好んで食べる。</p>
	<h4>コバノガズミ</h4> <p>ガズミ科の落葉低木。白い小さな花を密集して咲かせる。秋に熟す赤い実も美しく、野鳥たちが好んでつばむ。★4〜5月、●11月</p>	<h4>オオアリドオシ</h4> <p>アカネ科の常緑低木。春には漏斗(ろうと)型の白い花を咲かせ、秋には赤い実がよく目立つ。葉の付け根のトゲがアリを刺し通すほど鋭いことから名づけられた。★4〜5月、●11〜12月</p>	<h4>タカノツメ</h4> <p>ウコギ科の落葉高木。尖った冬芽は鷹の爪を思わせる。若芽は食用に。3枚の小葉の複葉。5〜6月に開花し、雌木に黒紫の実がなる。黄葉も美しい。◇11〜12月</p>	<h4>フユイチゴ</h4> <p>バラ科の常緑のつる性低木。実は食べられる。イチゴの仲間ではめずらしく、8〜9月に開花し、冬に赤い実が熟すことからこの名がついた。●11月〜1月</p>